



近現代スペイン演劇を代表する劇作家アントニオ・ブエロ・バリエホ
権威主義への痛烈な批判を込めた意欲作

杖を使わず自由に行動する教育方針の盲学校にやってきたひとりの転校生が、
目が見えないという真実を突きつけ、平穏な学校生活を乱していく……。

■写真・資料のご請求、ご取材のお問い合わせ

新国立劇場 演劇研修所 演劇研修係 高瀬・大島・柴田

Tel: 03-5352-5770 / Fax: 03-5352-5776 / Email: dramastudio@nntt.jac.go.jp

■新国立劇場 演劇研修所ウェブサイト

<https://www.nntt.jac.go.jp/dramastudio/>



[@nnt.dramastudio.tokyo](https://www.facebook.com/nnt.dramastudio.tokyo)



[@nnt_dramastudio](https://twitter.com/nnt_dramastudio)



新国立劇場

NNY
ドラマスタジオ

【公演概要】

2020年入所の第16期生は8月の朗読劇『ひめゆり』をへて、試演会『燃ゆる暗闇にて』に臨みます。

1949年初演の『ある階段の物語』で新しいスペイン演劇の幕開けとなるデビューを飾ったアントニオ・ブエロ・バリェホの本作は、翌50年に上演され、劇作家としての地位を確立した秀作です。20世紀半ばのフランコ政権の圧政に反発する寓話としても捉えられ、近現代スペイン演劇史の中で重要な作品のひとつとして位置づけられています。



舞台は、ある盲学校。そこでは、杖を持たずに勉学やスポーツに励むという校長夫妻の教育方針のもと、生徒たちは幸せで穏やかな学校生活を送っていました。そこに、白杖を持って歩く、転校生イグナシオがやってきます。彼は目が不自由なことに絶望し、目が見えることへの強烈な憧れを持っていました。この学校に対する彼の反動的な態度は、周りの生徒たちにも影響を及ぼし、学園内の人間関係も変化していきます……。

自由がなく抑圧された時代に書かれた本作は、無力感や敗北感にまみれた現状から抜け出そうと足掻く者と、現状の幸せを盲目的に受け入れている人々が対照的に描かれており、当時のスペイン情勢と無批判な市民たちへのバリェホの痛烈な批判が込められています。盲目や苦悩の暗闇と可能性や希望の光の交差を描くことによって人間の普遍的な姿に深く斬り込んだこの作品を、2017年第11期生の試演会にて『ある階段の物語』を手がけた田中麻衣子の演出でお贈りいたします。

ダイアログ・イン・ザ・ダークでの事前研修



稽古開始の前に、第16期生は、「[ダイアログ・イン・ザ・ダーク](#)」を訪問しました。

こちらでは、純度100%の暗闇の中を、視覚障がいのあるインストラクターに導かれながら白杖を片手に90分間探検します。人間の五感の約90%を占めている視覚が閉ざされた中、芝生、砂利道、坂道、電車、民家、橋、公園など、移り変わる環境を触覚や聴覚、臭覚を頼りに進んでいきます。

研修生たちは、最初は恐る恐る歩いていましたが、徐々に不思議と暗闇の世界の自由さ、寛容さ、暖かさを楽しむようになっていました。

白杖を頼りに道を進んでいく緊張感や不安、グループ内で声をかけあい互いの居場所を知ることで得られる安心感、匂いや手足の裏の感覚で周囲の様子を把握した時の喜びなど、90分間のすべてが濃密な体験となりました。

その後、明るい場所にて、インストラクターの方に学校時代について詳しくお話を伺いました。

インスティトゥト・セルバンテス東京での特別講義



7月には、[インスティトゥト・セルバンテス東京](#)を訪れ、同文化部長ハビエル・フェルナンデス氏に、特別講義をして頂きました。

作品が発表された20世紀半ばのスペインの政治情勢と、劇作家アントニオ・ブエロ・バリェホについて、わかりやすく解説して下さい、本作の政治的・社会的背景、そしてスペインの盲学校の歴史を学び、大変充実した時間となりました。

【ものがたり】

守られた空間内で、杖を使わずに自由にふるまう教育方針の盲学校に、転校生イグナシオがやってくる。彼は目が見えないことを生徒たちに突きつけ、優等生カルロスと対立する。その影響は他の生徒たちにも広がり、恋人同士のカルロスとホアナの関係にも変化が.....。

【スタッフ】



作：アントニオ・ブエロ・バリェホ (Antonio Buero Vallejo)

劇作家(1916-2000)

スペイン、グアダラハラ出身。マドリードの王立サン・フェルナンド美術アカデミー在学中に内戦が始まり、中退。共和派兵士として参戦したが、内戦後、10年ほど牢獄生活を送る。1946年に出獄。49年に上演された『ある階段の物語』がロペ・デ・ベガ賞を受賞。50年に『燃ゆる暗闇にて』が上演される。生涯で29作品を執筆し、数々の演劇賞を受賞のほか、86年にスペイン語圏の文学賞の中でも最高峰のセルバンテス賞、96年に国民文学賞を劇作家として初めて受賞。85年、グアダラハラ市議会がアントニオ・ブエロ・バリェホ演劇賞を創設。ほかの主な作品に『夢を織る女』『民衆のために夢見る人』『宮廷の侍女たち』『サン・オビディオの演奏会』『採光窓』『理性の眠り』『神々の到来』『施設』など。

翻訳：佐竹謙一 (さたけ・けんいち)

スペイン・ラテンアメリカ文学者、翻訳家

関西外国語大学外国語学部スペイン語学科卒、同大学院修士課程修了。1986年米国イリノイ大学(アーバナ・シャンペーン校)大学院博士課程修了。南山大学外国語学部イスパニア科教授。専攻はスペイン文学、比較文学。主な著書に『スペイン文学案内』『カルデノンの劇芸術 聖と俗の諸相』ほか、主な訳書に『現代スペイン演劇選集 フランコの時代にみる新しいスペイン演劇の試み』『娘たちの空返事 他一篇』ほか。



演出：田中麻衣子 (たなか・まいこ)

演出家

新国立劇場演劇研修所3年次学年担任。演劇研修所での演出作品は『七本の色鉛筆』朗読劇+ダンス『オズマ隊長』日英演劇アカデミー国際交流公演『怪物/The Monster』『トミイのスカートからミシンがとびだした話』『ある階段の物語』『ロミオとジュリエット』『血の婚礼』朗読劇『ハーメルンの死の舞踏』。他の演出作品に『パレードを待ちながら』『A New Musical ゆびさきと恋々』『地熱』『どうぶつ会議』など。2014年文化庁派遣新進芸術家制度でロンドンにて研修。日本大学芸術学部演劇学科卒業。Théâtre MUIBO主宰。

【キャスト】

新国立劇場演劇研修所 第16期生

			
伊海 実紗 いかい みさ	越後 静月 えちご しづき	岸 朱紗 きし あかしゃ	笹原 翔太 ささはら しょうた
			
都築 亮介 つづき りょうすけ	藤原 弥生 ふじわら やよい	松尾 諒 まつお りょう	宮津 侑生 みやづ ゆうき
			
安森 尚 やすもり なお	米山 千陽 よねやま ちひろ		

新国立劇場演劇研修所 修了生

		
林田航平 はやしだ こうへい 第5期 (2012年修了)	坂川慶成 さかがわ よしなり 第8期 (2015年修了)	神野幹暁 じんの もとあき 第15期 (2022年修了)

【公演概要】

新国立劇場演劇研修所 第16期生試演会『燃ゆる暗闇にて』

作：アントニオ・ブエロ・バリェホ

翻訳：佐竹謙一

演出：田中麻衣子

美術：伊藤雅子

照明：中川隆一

音楽：国広和毅

音響：工藤尚輝

衣裳：西原梨恵

演出助手：坂川慶成（第8期修了）

舞台監督：川除 学

出演：新国立劇場演劇研修所 第16期生

伊海 実紗 越後 静月 岸 朱紗 笹原 翔太 都築 亮介
藤原 弥生 松尾 諒 宮津 侑生 安森 尚 米山 千陽
林田航平（第5期修了） 坂川慶成（第8期修了） 神野幹暁（第15期修了）

後援：スペイン大使館

協力：インスティトゥト・セルバンテス東京



演劇研修所長：宮田慶子

主催・制作：新国立劇場

NEW NATIONAL THEATRE, TOKYO
新国立劇場開場 25周年
25th ANNIVERSARY

会場：新国立劇場小劇場

公演日程： 2022年10月18日（火）19：00 19日（水）14：00
20日（木）19：00 21日（金）14：00
22日（土）14：00 23日（日）14：00

チケット料金： A席=3,300円 / B席=2,750円 / ジュニア席(小～中学生)・学生席=1,000円
(10%税込) Z席(当日券)=1,650円

*クラブ・ジ・アトレ会員ほか、各種割引はありません。

*ジュニア席は入場時に年齢が確認できる証明書の提示をお願いする場合がございます。

*学生席はボックスオフィス(窓口・電話)および公演ウェブサイト上フォームにて取り扱います。お引き取りの際には、学生証が必要です。

一般発売：2022年9月6日（火）10:00～現在販売中

Z席の購入方法

Z席は、公演当日朝10:00から、新国立劇場 Web ボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。1人1枚です。

上記の方法での先着販売後、残席がある場合は、開演2時間前からボックスオフィス窓口でも販売いたします。電話での予約は承れません。

学生席のご案内

学生席はボックスオフィス(窓口・電話)および公演ウェブサイト上フォームにて取り扱います。

お引取りの際には、学生証をご提示ください。

>学生券お申し込みフォーム：<https://onl.sc/3agJGcb>

【チケットのご予約・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL：03-5352-9999（10:00～18:00）

新国立劇場 Web ボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

※新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い※
https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

【新国立劇場 演劇研修所について】

新国立劇場演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強い身体を備えた次世代の演劇を担う舞台俳優の育成を目指して、2005年に設立されました。研修期間は3年間で、原則として週5日間、午前10時～午後6時のレッスンを、年間を通して行っています。

1・2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣による基礎的な訓練およびシーンスタディを行い、3年次には修了に向けて数本の舞台実習公演を行います。

修了生は、新国立劇場公演のみならず、さまざまなプロデュース公演に出演、映像作品への出演、声の仕事など、活躍の場を広げています。

本公演に出演する第16期生は、2020年4月に入所。コロナ禍により活動が制限された中でも、2年半の厳しい研鑽を積んでまいりました。3年次である今年度、朗読劇『ひめゆり』を東京（新国立劇場）での4公演に続いて、パルテノン多摩、国立劇場おきなわにて上演し、舞台人としてさらなる成長を続けています。

今秋の試演会、そして2月末～3月の修了公演と、舞台での実践的な経験を積み、国内外で活躍する俳優への道の一步を踏み出します。今後の公演、そして活躍にもどうぞご期待ください。

新国立劇場演劇研修所ウェブサイト：<https://www.nntt.jac.go.jp/dramastudio/>

＜授業風景＞



アクション



海外招聘講師 特別授業



戯曲を読む

演劇研修所修了生の出演情報：<https://www.nntt.jac.go.jp/play/training/graduate/info/>

【第19期生選考試験情報】

2023年4月入所の第19期生を以下の要領にて募集いたします。

研修期間：3年間（第19期生は2023年4月から2026年3月まで）

募集人数：16名程度

- 出願資格：①プロフェッショナルな俳優としての舞台活動を目指していること。
②高等学校卒業もしくは同等の資格を有すること。
③2023年4月1日時点で満18才以上、満30才以下であること。
④心身ともに健康であること。
⑤外国籍者の場合、日本語が理解できること。

および、研修期間中の日本国内滞在許可が取得できること。

選考試験日程

- ・1次選考：2023年1月18日（水）、19日（木）のいずれか1日
- ・2次選考：2023年1月21日（土）
- ・3次選考：2023年1月22日（日）

出願期間：2022年11月28日（月）～12月15日（木）郵送必着

場 所：新国立劇場内リハーサル室（初台）／芸能花伝舎内新国立劇場演劇研修所（西新宿）

受験料：8,150円（税込） ※振込手数料はご負担ください。

詳細は、新国立劇場演劇研修所ウェブサイトからご覧ください。

<https://www.nntt.jac.go.jp/dramastudio/audition/>

